

教育学部子ども教育学科

2022年度前期「小学校教員採用試験対策講座Ⅰ」受講生

研究に関する説明文書

1. 研究課題名

源氏物語絵巻の詞書と絵画を活かした古典指導の研究―「橋姫」の場面を中心にして―
(本研究は、中部学院大学研究倫理委員会の審査を経て、中部学院大学学長より承認を得ています。)

2. この研究の目的と意義

授業内に提出された古典の読み取りシートの記述内容を分析し、言葉と絵による古典の内容理解の実態と課題を明らかにすることで、詞書と絵画を活かした新たな古典指導の方法を検討するための有用な資料となると考えます。

3. 研究方法

対象：2022年7月12日(火)3限「小学校教員採用試験対策講座Ⅰ」の授業内に提出された
古典の読解シート（①詞書・②口語訳・③絵画）についての21事例

分析方法：

- (1)読解シートから個人を識別できる情報を削除して独自の符号をつけ、①～③のシートごとに記述内容をExcelシートに入力する。
- (2)(1)のデータをKH Coderを用いて処理し、テキスト分析する。
- (3)①～③のシートから抽出された語句の特徴や傾向をみる。

4. 研究期間

倫理審査承認日～2023年3月

5. 研究の実施体制

研究責任者

中部学院大学教育学部子ども教育学科

教授 山田丈美：データ分析・論文作成・学会発表

6. この研究への参加に伴って生じる負担及び予想されるリスクについて

この研究は、通常の授業内で得たデータを用いる実践研究であるため、研究への参加に伴い生じる負担やリスクはありません。

7. 研究への参加とその撤回について

この研究への参加はあなたの自由意思によるものです。いつでも参加を取りやめることができます。同意されなくても、あなたに不利益になることは全くありません。

<研究への参加を拒否する場合の連絡先>

担当部署：中部学院大学総合研究センター（教育研究支援課内）

住 所：〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地

電話番号：0575-24-2238

F A X : 0575-29-3000

8. 研究に関する情報公開の方法

研究の最終的な結果は学会や学術雑誌で公開される予定ですが、結果は情報をまとめた形で報告されますので、あなたのお名前などの個人情報を特定されることはありません。

9. 研究に関する情報の提供について

研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、問い合わせ窓口までお申し出ください。

10. 個人情報の取扱いについて

氏名等の個人が特定される情報は削除し匿名化します。

11. データの保管及び廃棄の方法

研究情報を取扱うコンピュータをパスワード管理し、情報の紛失・遺漏等を防止します。また、データ情報のファイルにはパスワードを設定し保存し、研究責任者が責任をもって保管します。同意の撤回（中止の申し出）があったデータ等については、登録時から、データを破棄します。

研究終了後、試料は原則論文発表後5年、研究等の実施に係わるデータ等は論文発表後10年間は保存し、その後、適切に廃棄します。

1 2. 研究にかかわる資金源および利益相反について

本研究は、科学研究費助成事業助成金（基盤研究(C)課題番号：22K02560）を受けています。

今回の研究は授業内の学習活動による実践研究であり、本研究に参加することによる研究対象者の費用負担や直接的な利益は生じません。また、研究遂行にあたって、研究の結果及び結果の解釈に影響を及ぼすような利益相反は存在しません。

1 3. 研究対象者等及び関係者からの相談対応

【相談窓口】

中部学院大学 教育研究支援課

所在地：〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地

連絡先：0575-24-2238

E-mail：cgrd@chubu-gu.ac.jp

1 4. 知的財産権の帰属について

知的財産権が生じる可能性があります、その権利は、研究者および中部学院大学に帰属します。研究に参加していただいた方に、この権利が生じることはありません。

以上

①詞書の積文に関する読解シート

古典の読解① 学籍番号 () 氏名 ()

以下は、俗世間を離れて宇治の山荘で静かに暮らしている八宮を訪れてきた薫が、琴の音がするので透垣を少し押し開けてみると、八宮の二人の姫君（大君、中君）の姿が見えた場面である。

設問1 以下の積文から、二人の姫君はどのような人柄と想像できますか。また、その根拠となった言葉を書きましょう。

①一人目の姫君の人柄

[]

根拠となった言葉

[]

②二人目の姫君の人柄

[]

根拠となった言葉

[]

[積文]

〈第一紙〉あなたに通ふべかめる透垣^{すいがい}を少し押し開けて見たまへば、月のをかききほどに霧わたれるをながめて、簾少し巻き上げて、人々ゐたり。簀子^{すのこ}になえばみたる童、同じ様なる大人ゐたり。上なる人、一人柱に少しゐ隠れて、琵琶を前に置きて、撥^{ぼち}を手まさぐりにしては、隠れたりつる月の〈第二紙〉にはかにいと明くさし出でたれば、「扇ならで、これしても月は招きつべかりけり」とて、さしのぞきたまへる顔つき、いみじううつくしげなり。そひ臥したまへる人は、箏^{ことう}の上に傾^{かたが}きかかりて、「入る日を返す撥こそありけれ、さま異にも通ひたまへる御心かな」と、うち笑ひたまへる、いま少し重りか 〈第三紙〉に愛敬^{あいぎやう}づきたまへり

②詞書の口語訳に関する読解シート

古典の読解② 学籍番号 () 氏名 ()

以下は、俗世間を離れて宇治の山荘で静かに暮らしている八宮を訪れてきた薫が、琴の音がするので透垣を少し押し開けてみると、八宮の二人の姫君（大君、中君）の姿が見えた場面である。

設問1 以下の口語訳から、二人の姫君はどのような人柄と想像できますか。また、その根拠となった言葉を書きましょう。

①一人目の姫君の人柄

[]

根拠となった言葉

[]

②二人目の姫君の人柄

[]

根拠となった言葉

[]

[口語訳]

あちらに通じているらしい透垣を少し押し開けてご覧になると、月のきれいなところに霧がたちこめているのを眺めて、簾を少し巻き上げて、人々がすわっている。簀子（縁側）に着古した衣の童と、同じ様の女房がいた。室内の人は、一人は柱に少し隠れて坐り、琵琶を前に置いて、撥を手でもてあそび、隠れていた月が急に明るくさし込んだので、「扇でなくて、これでも月は招くことができたのね」と言って、のぞいた顔つきは、たいそう可愛らしい。寄りかかって横になっていた人は、箏の上にもたれかかって、「入る日と呼び戻す撥はあるけれど、変わったことを連想なさる御心ですね」とほほえんでいる方は、もう少し落ちついていてやさしそうだ。

③絵巻の絵に関する読解シート

古典の読解③ 学籍番号 () 氏名 ()

以下は、俗世間を離れて宇治の山荘で静かに暮らしている八宮を訪れてきた薫が、琴の音がするので透垣を少し押し開けてみると、八宮の二人の姫君（大君、中君）の姿が見えた場面である。

設問1 以下の絵から、二人の姫君はどのような人柄と想像できますか。また、その根拠を書きましょう。

①一人目の姫君の人柄

[]

根拠となった言葉

[]

②二人目の姫君の人柄

[]

根拠

[]

国宝 源氏物語絵巻「橋姫」の場面 (徳川美術館所蔵)

絵画 (掲載省略)

(源氏物語絵巻「橋姫」 徳川美術館所蔵)